

編集と発行

金木町企画室

青森県北津軽郡金木町
大字金木字朝日山323
電話 632111 (代表) 内線40



二十年前で地引き網が引かれた鯉捕り



大物鯉に挑戦

藤枝溜池の鯉捕り

二十年前の地引き網。
四年ぶりに見る大鯉。

藤枝内水面漁業協同組合五十二人の組合員による一家総出の鯉捕りは壮快だ。

重さが四キロ、五キロと体長一メートル近い大物鯉に泥をはねられ一日漁師はやはり泥にまみれた農家になる。

大正九年、町制施行年から三年おきに続けられているという藤枝溜池の鯉捕りは、昨年荒天候で一年延び今年四年ぶりとなった。遠巻きにした地引き網を少しずつ狭めていくと銀りんの数も増し、太陽を反射してピチピチ光る気が遠くなる程の小鯉に混じってゆらりと大鯉が背を見せると「それ!!」とばかりに手網で捕獲。大きな真鯉に真黒な顔もついほころぶ。農繁期を前に、とつちやも、かつちやも終日笑顔がつきない。

今年度の災害復旧費は 一億三〇〇万円

二七カ所の凍上災害

豪雨、豪雪などの自然的条件で損害の出た道路や

河川の災害復旧事業で、今冬の連続真冬日による

凍上道路を対象にこのほど国の査定が実施され、

復旧総額は一億三〇〇万円の予定となりました。

災害復旧事業は、土木、農業など多種多様に及びそれぞれ分野で実施されま

すが、今回の査定対象は、路面凍結によるアスファルト舗装の災害査定で総延長

が六・八キロメートル。川

倉地区の町道など二七カ所

に及んでいます。

査定は、建設省の専門査

定官と大蔵省の立ち合いの

もとで、町が事前に県と協

議して作成した査定設計に

基き、現地及び書類を嚴重

に調査。実施設計の基本と

なる査定金額を算出します。

災害査定された今回の道

路復旧費は、査定、実施の

と

な

り

ま

た

り

ま

た

り

ま

た

り

ま

た

り



○印 今回査定された凍上災害の道路 総延長は約6.850m

各設計単価の違いから最終的には事務費を含めた一億二、一〇〇万円が見込まれ、このうち約六六%の八千万円程度が国の補助。町の自主財源が軽減されます。

現在のところ、財政の都合上、二七カ所のうち一九カ所を今年度に、残りの八カ所は翌年度以降に繰り延べて実施する予定です。

真冬日が多く凍結深度が四〇センチにも達した今冬の寒さは除雪費の三、三〇

〇万円(60年度決算見込)だけでなく道路にも被害を与え、雪国独自の財源が必要

となつています。

また、融雪災害のあった嘉瀬大堰川の災害復旧査定も近く予定されていること

から昨年の八、一〇〇万円を大中に上回り積雪量の多かった今冬を物語っています。

となつており、目的別では、移転新築した金木中学校工事請負費三億八、〇四二万円をはじめとする総額六億三、四六〇万円の教育費が昨年と同じくトップを占めています。

また、性質別では、人件費が二九・二%の八億六、六三六万でトップ、次いで投資的経費、補助的経費の順になっています。

尚、昭和六〇年度決算については、議会認定後、号を改めて紹介致します。

と

な

り

ま

た

り

ま

た

り

ま

た

り

ま

た

り

ま

た

り

昭和60年度決算

一般会計実質収支は 五千二百八十一万円の 黒字見込み

昭和六十年年度金木町一般会計決算がこのほどまとまり、歳入歳出差引額は六、九九三万円の黒字でこのうち翌年度繰越を除いた実質収支黒字額は五、二八一万円の見通しとなりました。

まとめられた決算の収入総額は、昨年より六、六五

〇万円減の三〇億四、三〇〇万円でのうち地方交付税が四五・三%の一三億七、九〇〇万円。自主財源とされる町税は昨年より九・七%の伸びを示し収入の一八・四%にあたる五億五、九一七万円を占めています。

これに対し、支出総額は、昨年より五、八一九万円少ない二九億七、三一一万円



凍上災害にあったアスファルト道路

金木町長選挙 10月10日投票日

名簿縦覧は

10月5日、6日の二日間

から金木町に住民票を移していない方は選挙権がありません。
今回の選挙における選挙人名簿の縦覧は、十月五日～六日の二日間、午前八時～三十分から午後五時まで町選挙管理委員会室（役場二階）で行われます。

合併後の金木町長選挙投票調

投票日	有権者数	投票率
1 30. 4. 7	8,785人	93.9%
2 33. 4. 9	9,032	92.68
3 37. 4. 6	9,545	90.94
4 41. 3.22	9,423	91.23
5 45. 3.24	9,568	78.38
6 49. 3.21	9,676	84.26
7 53. 3.21	9,999	89.76
8 55. 2.11	10,190	94.78
9 57.10. 3	10,261	87.23
10 61.10.10	10,345 (9月2日現在)	

不在者投票の請求は早目に!!

選挙人名簿に登録された方で、仕事や旅行などで投票日に投票できない方は、不在者投票（十月五日から九日まで）により投票することが出来ます。
この場合、不在者投票による投票用紙の請求をしなければなりません。決めた日までに請求してください。

また、出稼ぎなどで町外に滞在している方は、その家族の人が代って請求することも出来ますが、この場合は郵送期間を考慮して早目に請求してください。

私たちの声を聞いてください。

金木町選挙管理委員会。

金木町明るい選挙推進協議会。

みんなそろって10月10日
投票所へ出かけましょう



町づくり
明るい選挙
みんなの期待
金小六年 荒関 直子



町づくり
基礎になるのは
明るい選挙
金小六年 吉田 幸子



明るい
町をつくる
大事な選挙
金小六年 荒井 千加



清く正しく
明るい選挙
金小六年 秋元麻木子



くれない
もらわない
明日を築く
正しい一票
金小六年 斉藤 大啓



自分で
決めよう
自分の一票
金小六年 大橋ゆかり



今日もみて
明日もみて
決めようこの一票
金小六年 藤田真紀子



金木町
清く正しく
美しく
金小六年 福士 智子

開拓史 土との闘い

昭和初期、移住部落の創設は山形県の萩野、群馬県赤城山麓などで実例していましたが、青森県の計画した「昭和更生部落」は単なる移住部落でなく、従来の農村制度そのものも新しい組織制度に変え、不安定な農家経済の更生の模範となるべきことを目的としていました。

このため、部落設計も慎重に行われ、高台に引用する水利の現地調査など計画

昭和九年、これまでの凶作をよそに農業に期待をかけた四十戸が住宅の完成を契機に入植。土づくりの第一歩は開墾作業から始められました。



当時の産業組合前での記念写真

県案で作られた 模範農業集落

昭和八年、秋もだんだん深くなる頃、県庁内で田村農政課長が中心になり、県内に窓の大きな新しい住宅を造り水田五反、畑二町五反、宅地二反位を一户に与え入植させ、新しい村を造ろうと計画し、当喜良市村、西津軽郡館岡村、出来島など何か所も候補地に見立てていた。――更生部落新岡清土さん（故人）の手記より。

困窮を強いられ農作業のすべてが人馬一体。生産基盤も安定しない時期に従来の農業経営及び農村制度の欠陥を是正し、新たな土地を求めて理想的農村形態実現を目ざす「昭和更生部落」。協同組織によって技術、経済両面の実績を上げるといふ当時としては、画期的な農業のモデル事業と言われます。

以下は更生部落の開拓史です。

入植者総出で秋まで かかった開墾作業

開墾、水利、建物の位置、道路、生産、販売基盤などすべての計画が会議にかけられ決定し、いよいよ喜良市村の原野約百二十ヘクタールに県下の市町村から入植者を募集。一次、二次と九十余名の応募者の中から四十名が選ばれました。

「二十五歳から三十五歳までの農業経験を持ち、労働力が一家で三人以上という条件で二回も面接試験を

した。試験は、稲の品種など身近なものを質問されたのが熱意の程を聞かれたような感じでした。」

「桜庭英三さん（七十八歳）。「田五反、畑二町五反に住宅付きが魅力で入植した。自作農資金千九百九十円の二十五年度返済は、年約四百数十円の償還でしたが、はじめのうち年取も上がらず大変でした。」

「今忠吉さん（七十六歳）。「昭和九年、これまでの凶作をよそに農業に期待をかけた四十戸が住宅の完成を契機に入植。土づくりの第一歩は開墾作業から始められました。」

「まったくの原野を刈り払い当時日本に数台という六十馬力のトラクターで荒おこし、その跡はトガ、マトガの農具を使った人力による手作業。根のからみついた土の固りをほぐす一家総出の仕事は、自分の土地だとする自覚と収穫の夢を託して春から秋まで延々と続きました。あらましの開墾を終えたのは背景の中山脈も紅葉しはじめ出した頃。昭和九年の春、男だけが最初に共同生活をしながら入植し、十月頃住宅の完成を待つて一家を構えた。開墾は皆黙々と働き、今では想像もつかない。大根を一番に作付して「たくあん」を作り、弘前の第八師団に送ったものだ。」

「岡田久吉さん（八十歳）。「当時一番困ったのは、つらい開墾作業でなく、食糧でした。イモや大根を混ぜたご飯が主食で、おかずは、たくあん。当時安かった鱈や鮫などの魚は正月だけでした。子供たちには難儀をかけたと思います。」

「成田泰三さん（七十四歳）。「住宅は、快適でした。六畳と八畳の畳の敷いた部屋と台所、馬屋、作業場、総ヒバで丈夫だし、窓が大きいのでとても明るいと思いました。」

「成田さぶざん（七十一歳、夫婦で健在）。「これまでのカヤ葺屋根と違った葺葺の住宅も、田も畑もほしかった土地すべてが自分の財産となりました。」

昭和10年の年間家計簿 (一戸当り平均)

収入 448円93銭

支出 331円85銭

(ただし、農業などの事業費は含れていない)

内		訳	
主食費	173円31銭 52.2%	交際費	12円56銭 3.8%
副食費	27円47銭 8.3%	会費	50銭 0.2%
被服費	16円84銭 5.0%	住居費	13円48銭 4.1%
諸税費	1円81銭 0.5%	光熱水費	34円47銭 10.4%
教育費	2円6銭 0.6%	家具等	4円61銭 1.4%
社寺費	1円63銭 0.5%	娯楽費	5円31銭 1.6%
医療費	5円21銭 1.6%	嗜好費	13円69銭 4.1%
冠婚葬祭費	3円50銭 1.1%	修養費	1円2銭 0.3%
		雑支出	14円38銭 4.3%

「昭和更生部落」

原野を開く

心の支えは 「百万一心自力更生」

産業組合(昭和二十一年頃喜良市農協に合併)を組織し、神社を建立し、共同作業場や倉庫もできました。しかし、開墾早々の土地は、思うような収穫を上げることができず、数年間は自給自足の生活。昭和十四年頃には、現在畑作の基幹となっている葉たばこ栽培に取り組みましたが思うにまかせず、馬鈴薯、西瓜、菜種が主産物。なかでも「イモ部落」と呼ばれた馬鈴薯の収量は予想に反して大豊作となり、一年に約一万余の

出荷ができるようになりました。「十三年頃電力になってから始めて揚水したと思います。何しろ「ブルドーザー」などなかった時ですから、その水持ちの悪い事と言ったらなかった。まるで「ザル」に水を入れているようなものでした。(中略)従って米の少なくなるとれる者ほど、畑から金を上げたいと思うようになります。」と新岡さんの手記。米は自給程度の収量しか望めないため、一戸当り二・五ヘクタールの広い畑に主力をおき、馬鈴薯、大豆、菜種、すいか、大根、小豆、南瓜、白菜、小麦などあらゆる野菜の作付をするようになりました。「終戦当時の物の無いとき、部落にだけは野菜が豊富でした。あちこちから買入れに来たものです。」と新岡ナミさん(七十二歳)は自給自足の強みを話してくれました。

昭和更生部落も終戦を契機に一変し、これまでの自



“百万一心自力更生”の大書を前に現在の入植者



工藤義誠さん

作農資金の返済を部落集会所と共同作業所などの売却で一掃。四十戸の入植者はこれまでの返済資金を運転資金として使うことができようになりました。冬は男が営林署の袖夫として日給八十銭で働き、女は縄やむしろ作りを共同で行う貧乏暇なしの一年が続きました。

昭和四十年頃の軌道に乗

現在は二億円農業の葉たばこ栽培

「当時入植した人達は、鎌でおこし、やっと馬でハローかけしたりしたもので、動力耕耘機もなくトラクターもなくブルドーザーも利用できなかった時代です。入植当時の苦勞話など話しても、誰も耳をかす人はない。」と新岡さんの手記は結んでいます。

農村経済更生施設の一つ

「当時入植した人達は、として昭和八年に県案で創設された「昭和更生部落」。四十戸、百八十五人の入植で作られた部落が現在四十戸、二百二十一人。五十五歳前後が二世、入植当時の三十歳前後が三世となっており、五十二年間の土との闘いを二億円農業となつた葉たばこ栽培に託しています。」

た「百万一心自力更生」。県の計画どおり八戸で一組の共同組織が作業のうえからも効率的で自給自足の生活では物々交換の場となり、相談相手ともなっており、でも新戚以上の付き合いが続いていると言います。現在、部落青年団長の工藤義誠さん(二十九歳)は「苦勞話などはあまり聞きません。でも毎日の機械を使った農作業を通してでもわかるような気がします。時代が変わっても更生部落は、更生部落の農業があり、それを継承し、最善を尽くすだけです。」ときっぱり農業後継を自負してくれました。

長寿を祝い 町敬老大会

最長寿者は 西村さん (96才)

敬老の日(十五日)を前に町内のお年寄りを一堂に会して九日、中央公民館で

「金木町敬老大会」が開かれ、八十歳以上の長寿者夫婦三組のほか長寿者五十一名を顕彰し、長寿を祝いました。

大会は、約四百人のお年寄りが参加して国歌斉唱と黙とうのあと、古川竹夫町長が、「これまで培った歴史の背景は皆さんの知識と経験のおかげ、これから一



古川町長から顕彰を受ける長寿者

層磨きをかけて地域づくりを老人パワーを発揮してください。」とあいさつ。今年九十六歳を迎えた町最長寿者の西村ふよさんなど五十

一人、三夫婦に顕彰状と記念品を贈りました。

このあと、来賓の沢田茂町議会議長らの祝福を受け、顕彰者を代表して工藤源三郎さん(八十二歳)が「これからも健康に留意して長寿に努めます。」と謝辞を述べました。

また、顕彰を受けた今年九十歳を迎えた太田助七さんは、「長生きすればいろいろなことに出会えうが表彰はとてもうれしい。これからも食事などに気をつけて長寿に努めます。」と顕彰を喜んでいました。

祝 金木町 長寿者番付 九月一日現在

東			
横網林町	西村 ふよ (96)	前頭二神原	前田 タヨ (91)
大関蒔田	黒滝善之助 (94)	同二畑中	土岐 志よ (91)
関脇寺町	高橋 常作 (92)	同三昭和(兼)	浜田 きせ (91)
小結小川町	新岡 たけ (92)	同四若松町	太田 助七 (90)
		同五向道	白川 ふよ (90)
			同六神明町
			葛西 きな (90)
			同七派立(兼)
			小野 たき (89)
			同八朝日町
			小山内タヨ (89)
			同九派立(兼)
			浜田 さき (89)
			同十柏木町
			今 謙光 (89)
			同十一更生
			葛西 つよ (89)
			同十二林町
			米谷 ゆわ (89)
			同十三林町
			今 こと (88)
			同十四神原
			前田 ふゆ (88)
			同十五下古町
			小山内きそ (88)

西			
横網美晴町	浅木 似知 (95)	前頭一湯の川	山谷 きく (91)
大関柏木町	古川 とみ (93)	同二東町	棟方 さな (91)
関脇林下	中谷 み (92)	同三鍛冶町	津田 孫市 (91)
小結湯の川	泉谷豊次郎 (92)	同四後町	黒川 ふに (90)
		同五柏木町	今 とめ (90)
			同六鍛冶町
			須崎 りせ (90)
			同七女坂
			其田 さわ (89)
			同八朝日町
			角田 サト (89)
			同九下町
			桑田初五郎 (89)
			同十温の川
			関本 くり (89)
			同十一浦町
			新岡 つる (89)
			同十二田町
			田村 な里 (88)
			同十三湯の川
			今 なよ (88)
			同十四下新町
			木下 つね (88)
			同十五北本町
			奈良 勝雄 (88)

クッキング ⑥

「ようしもち」

「あいさつ運動」 金木町教育委員会

○朝おきたら家族で……………「おはよう」

○道であつた人にも……………「おはよう」

○学校で、職場で……………「おはよう」



中柏木 原田富枝さん TEL (52-4016)

子供からお年寄りまで喜ばれる昔ながらの「ようしもち」原田さんに工夫を凝らして作ってもらいました。

▽材料 (二十五個分)

うるちの粉…一キログラム
さらしあん…五百グラム
砂糖……………五百グラム
塩……………少々

▽作り方

①うるちの粉にさらしあん砂糖、塩を加えて、30分ぐらい湿り気が出るまで手で

▽コツと応用

さらしあんがコツで盃で形をとる場合、詰めすぎると形がくずれやすくなります。また、「ようしもち」をラップで一個一個包んで冷凍にしておくと食べたい時、もう一度蒸し直して食べられます。

芦野児童動物園に ヒグマが仲間入り



芦野児童動物園にこのほど、県内の動物園では初めてというヒグマの子供二頭が仲間入りし、訪れる子供

たちに早くも愛きようを振り舞っています。仲間入りした二頭のヒグマは白っぽい方が「ヨンちゃん」、黒っぽいのが「ロクちゃん」でともに雌。秋田県阿仁町周辺で進められている映画「イタズラ熊」の主人公を演じ、このほど撮影が終了したため町で譲り受けたものです。

「ヨンちゃん」と「ロクちゃん」は、以前サル山だったところを早速住居に提供され人慣れしているため、名前を呼ばれると走り寄ってくるなど元気に遊び回っています。

周辺には開園当初からツキノワグマがいますが、ヒグマの登場は、県内の動物園でも初めてで、しかも県内には、個人所有のものが四頭と名前の割には大変めずらしい動物となっています。

嘉瀬小相撲部 優勝パレード



福島県郡山市で開かれた「第5回東北学童相撲大会」で嘉瀬小学校チームが団体、個人の完全優勝を成し遂げ

さる八月二十七日、町内をパレードし、沿道から盛んな祝福を受けました。同チームは一昨年の第三

回大会でも優勝しており、今回で二回目の快挙、パレードは、個人戦優勝の沢田明伸君、準優勝の原田治君をはじめ、山中幸樹君、小松健春君、鳴海匡洋君、千葉行誠君の六人が、ジープ二台に分乗し、同小の鼓笛隊を先頭に町内

を一周。町民から盛んな拍手を受けていました。また、この日、嘉瀬公民館で祝勝会も開かれ、古川町長らが健闘を讃えました。

フレッシュ ギャル



神原

秋元英公子さん

19歳 B型 魚座

町内の洋品店へ勤めて十八ヶ月目になりました。主にレジ係ですが、販売も手伝っています。金額が合わず先輩によく注意されましたが、厳しい先輩に見

えたのも一ヶ月。今ではもうまごころと感謝の気持ちで、お客さんに接し自然に振る舞っています。仕事を終えてボーリング場へ行き、

休日は、ドライブ(この前初めて県外へ飛び出しました)。映画(最近見たのは「ビーバップ」)レコード鑑賞(安全地帯が好きで、玉置浩二が理想のタイプです)テニス等多忙です。

町内に、図書館のような静かで落ち着ける場所があったらいいなあと思います。



歌手 三田圭二さん
福祉センターに

このほど古里の思いを込めた「吹きだまり」でデビュー。全国縦断キャンペーン中に同センターを訪れたもので、突然の来訪にお年寄りもびっくりし、プロののどに聞き入っていました。

中央老人福祉センターにさる八月二十七日、金木町出身の歌手、三田圭二さん(三一歳)「本名長利育彦さん」がひょっこり訪れ、プロの歌でお年寄りを激励しました。三田さんは吉幾三さんと同じ嘉瀬出身で、四十八年金木高校を卒業後上京。プロを目指してレッスンを続けて来ましたが、

金木病院カルテ ⑫

乳ガンの自己検診法

外科医長 唐牛 忍

一昨年より始まった乳ガン・甲状腺(昨年より胆石症の超音波検査も追加)の集団検診は受診率も向上してきており、非常に喜ばしい限りです。わが国の女性のガンの死亡原因は胃、子宮などに次ぎ、乳ガンは第五位で年間四千人以上の方

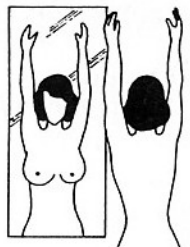
が死亡しており、10~20年後には乳ガンが女性のガンのトップになるだろうと言われています。

乳ガンは初期段階から自分で発見できる数少ないガンの一つです。そこで乳ガンの自己検診法について述べてみましょう。

毎月一定の日自己検診

- まず自己検診のコツは、生理の後に必ず行うことで、閉経後の人は毎月一定の日を決めて実施するのが大切です。以下は具体的な手順です。
1. 鏡の前に立って
 - (1) 左右の乳房は同じ形か、
 - (2) 乳頭の向きは同じか
 - (3) 乳頭のどこかにくぼみやひきつれはないか
 - (4) 乳頭(乳首)のへこみや湿疹などはないか
 - (5) 但し昔からのものは心配ありません

図①



2. (4) これらのことを胸を張った状態、少し前かがみの状態、両手を上に上げた状態でそれぞれ観察する(図①)
- 寝ころんで(乳房の大きい人は肩の下にタオルなどを入れる)

図②



- (1) まず左腕を体の脇につけ、右手の親指以外の指をそろえ、左の乳房全体を外側から内側へとまんべんなくさわってみる(図②)
- (2) 今度は左腕を頭の下に入れ、乳房の内側から



- (3) わきの下に指を入れ、リンパ腺のグリグリを調べる
- (4) 右側の乳房についても

はじめまして

恵里ちゃん
7月25日生まれ
体重 3,040グラム
神原 秋元正治さんの長女

図③



3. 同様に最後に左右の乳頭をしぼる。血液や膿のようにな分泌物が出ないか。
- 以上が自己検診のやり方ですが慣れれば五分とかかりません。初めはしこりがあるのかないの必要領を得なくても何回かやってみるうちに、段々感触を覚え、万しこりができてもすぐに発見できるようになります。終稿に一言。乳ガンは婦人科と思ひ込んでいる人が多いようですが、乳ガンの診断や治療は外科医が中心となって行っています。

羽佐間正雄氏 講演会のお知らせ



日時 九月二十四日(水) 午後七時から
場所 商工会館ホール
テーマ「勝負に生命を燃やす男たちのドラマ」
講師 NHKチーフ・アナウンサー羽佐間正雄氏
※受講は無料です。

戸籍の窓

八月届出

おめでとう

- 秋元 恵里(正治) 神原
榊引 恒介(隆) 金木
鳴海 公大(隆弘) 金木
白川 香菜美(喜一) 川倉
山中 郷試(明彦) 嘉瀬
工藤 志緒利(信夫) 金木
今 優子(清治) 喜良市

人口と世帯	8月31日現在		前年同月比	
	男	6,735人	-	100
女	7,316人	-	52	
計	14,051人	-	152	
世帯数	3,916世帯	+	15	

- 楠美 茂樹(廣文) 金木
角田 淳子(善正) 金木
長内 嘉秋(嘉七郎) 鶴田町
木村はぎ江(誠威) 嘉瀬
澤田 兆(厚) 嘉瀬
泉谷久美子(見雄) 喜良市
水上 孝一(喜美枝) 金木
寺沢 祐子(佳) 鵜沢町
工藤 信昭(忠信) 嘉瀬
野宮 誠子(やみ子) 金木
加賀田光行(美智治) 中里町
木下 京子(文雄) 嘉瀬
- 小寺 恵(11才) 金木
秋元清五郎(77才) 嘉瀬
今 正紀(34才) 喜良市
花田 きね(93才) 金木
波利摩ヨシ(81才) 金木
伊藤 良雄(65才) 嘉瀬

おめでとう